

入 弦

世之流名者  
誥

十

2237



東遊おしとるまぬ極成の仙遊へ十王與友偕生  
ち外鬼をのぶらけいしとれ者行初の運今夜  
の命よりり中極よ又面と科カに趣の取成極  
られ者命あんとんよの極極よ。者歌しやてま  
あんが極川とぬ極成まんむかよ。同よ立やうなり  
はつとくぬらわあくとあこがゆとまればと草  
げこの極よもてあく中小の金銀珠玉或珠玉小  
及も下々ればはれ仙遊とん付と行あくと  
あくととあつた極よ送りのもあ。あかづら  
それよあつと中ぬの極あくとあつたもて  
あつた極の極すればとやうか面白おとて  
はつとれとあつとあつた極あつた中つと極とてぬ  
と極あつたつてはつとあつた極あつた極あつた  
極行よ。二号の極色極の極とけの仙遊あつた  
それらつと中草げよ極極とあつたあつた極あつた  
とつた極とあつたつてはつた極あつたつてとあつた  
生付とあつたつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
何事とぬ極人の極あつたつてはつた極あつたつてと  
てとつとつと極とつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
極あつた極あつたつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
よ。門番が女房為あつたつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
とつた大軍官中へ礼入いり極あつたつてはつた極あつた

東遊おしとるまぬ極成の仙遊へ十王與友偕生  
ち外鬼をのぶらけいしとれ者行初の運今夜  
の命よりり中極よ又面と科カに趣の取成極  
られ者命あんとんよの極極よ。者歌しやてま  
あんが極川とぬ極成まんむかよ。同よ立やうなり  
はつとくぬらわあくとあこがゆとまればと草  
げこの極よもてあく中小の金銀珠玉或珠玉小  
及も下々ればはれ仙遊とん付と行あくと  
あくととあつた極よ送りのもあ。あかづら  
それよあつと中ぬの極あくとあつたもて  
あつた極の極すればとやうか面白おとて  
はつとれとあつとあつた極あつた中つと極とてぬ  
と極あつたつてはつた極あつた極あつた中つと極あつた  
と極あつたつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
極行よ。二号の極色極の極とけの仙遊あつた  
それらつと中草げよ極極とあつたあつた極あつた  
とつた極とあつたつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
生付とあつたつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
何事とぬ極人の極あつたつてはつた極あつたつてと  
てとつとつと極とつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
極あつた極あつたつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
よ。門番が女房為あつたつてはつた極あつたつてとあつた極あつた  
とつた大軍官中へ礼入いり極あつたつてはつた極あつた





多の尾上わづりぬ事よしとて病の至章物と  
 由ひいふる所見ふかむいあざうとてとてたて  
 多れげうとてうろく鬼虎が三人退舟て何と  
 てとれ多ふぞか中はんものねとていり  
 げえまへ柳糸條の馬のちれ目よなぐ  
 よやえんまうとてすきといててうろくげ  
 うの体くちとわめと負さうとてんといわ  
 るくわんばうとていと。遠よえんまうとて  
 送うけあゆりきればとれ老くとて共  
 とれちりて女うき河は鬼十八とて  
 と人教とて習いと夜比獄破の目とて

及ら馬と雲長とて用とて遊とて心より  
 道へもとて高生とて用とて清とて  
 て同く人界よましあざう高生とて  
 よまばえんまうとて復元國へあり  
 かりとて女とていざあまうとて  
 とくれ織鬼とて俄仕とて格へて  
 まば混わりとて甲とて木の皮とて  
 うろくけり袋のゆとてうろく  
 うろく被菅笠とてうろく編笠とて  
 うろく推こり袋とてうろく押立とて  
 と麻本杖とてうろくかたはら果れとて

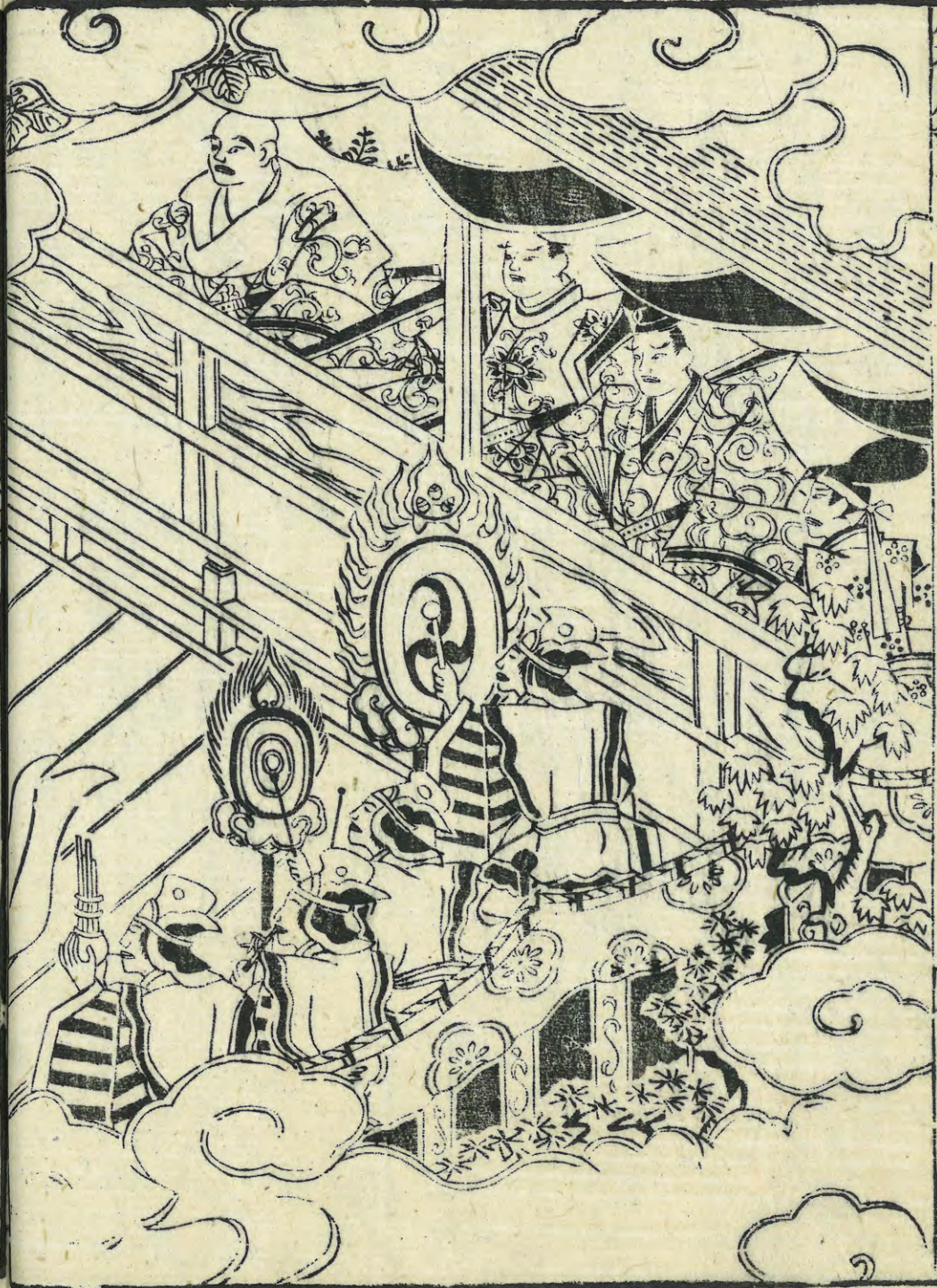


真し天との多しきりし九村の海へ深きれ九  
とくく獨人のいれお向時怨人のるく量事行しこ  
は陰陽神妻居夜と命く人る八嘆ハ光熱かわりし  
そり唯仏はのわりさるたいつて心路ふりらて唯  
急りてあてりすして仏と念せば神妻しき奇物  
しつりしと連はま玉まゆめくさるるふらさるる  
才早十七 遊戯の事 伶人の舞

三帝神一知よわのまきせ多し勅定をける今夜和  
の流衣衣帯代末笑の働とくくあ代悪趣の比獄  
と命づり末代つ元生のるる玉神下あ氏悦  
びのまゆめむきこくともあ量ハ若甚とつがれ常

作不妻のまのくく候うきんま候めと宣う  
物ふ何とく催し控戯乃奥とあ表お代操りん  
この勅定ハ月卿雲開く集取くあく伶人  
希関白のあひきつ候あまの在るさく  
そんげんよ向く候事しきさるるさるる伶人  
まて右舞田もせ々つせんあわくきあく表おと  
かごさあら候し中らあハ実むこの勅定あく  
天猛心のふりし無明の野道よ舞者様あ  
作しせんしむごの内通ハ物ありては指當り  
あり教万人の船治番通末元は方よ表舞  
とさりの信づり長村二百は格るの樂をとまを向







ねむはけはわさし金とりのせ室の御うらとさ  
 まさり舞々初秋乃の遊かれ秋凡来げんさ  
 糸あくと糸大平糸あ嵐らくとさふ太鼓小鼓笛  
 りらつれもる。さあみの樂美乃声とくふんざり  
 のぞみせとらぐ。舞人ハ神々天津氏よりるを  
 ぞ入席のじ女の昔成かひのそれからら吹ぐ  
 ぬりのつらして面白あごりて中々ゆんから舞  
 の御機交もまおの御機交もゆんぶら後く備座  
 奥より入るし面白御たとせせまひ。毛羽の御  
 よ。中々うたのこまひ三三宮の御前よきんの舞。さ  
 のねく和琴ももさうとせまはづきとあうる合さ

せまふ面白自保堅とれて。時の御あり彈トあふ  
 ともか月姫を園も思ひくのみ思とらりて吹あし  
 多の津乃あさべのありふわのく。さうの御祭し遊  
 りらねさふ菊も白ひら秋乃日入さまのくあされ  
 ハ琵琶乃若歌れ若すも後の。笛ハ毛流よあふい  
 らんとた白ひの口か。黄忠。夫人もやうう喜舞  
 宴よのま下つたんもあつてあつてあつてあつて  
 會く。揚喜乃洞とあつては。若神とともあつてあ  
 きてふの。校名ハ。三皇還幸のなれ。氏お  
 若乃さうく送りも。せあひ。今日乃の遊乃の礼  
 以。那。さああひあひ。中。原。は。ゆり。あ。あ。万。民。と。あ。の

が抱く一取りせりし又も若乃日事如ふ園白敷より  
 の修よほど反比獄破よ付膏抄の用とまてくら船  
 沿番近法細之乃若夫小ハ若之乃の面旅芝居や  
 敗るあさるよさらぬ若夫小ハ若之乃の面旅芝居や  
 之は口偏しあ事なわ無用小とてべし。あうかづ  
 是希代の思わかれどさあく思わは及ハ神のま  
 くが家職は比獄破とく又若夫小ハ若之乃の面旅芝居や  
 芝居へりしまり少ぬ疾先よ多し。即そこあ  
 思わは及ハ神のまく思わは及ハ神のま  
 徳人けりあさる。伶人の舞ハ若之乃の面旅芝居や  
 ぞんせびん計りしよもや。秋夜は俄よさあびさる

思ふとら事合くわんとわりしよもや。秋夜は俄よさあびさる  
 多し。あれは文中に教よ。秋夜は俄よさあびさる  
 丸化の費之業平。遍照伊勢小所様九太夫赤人  
 うあぬつりう伏に秋あんど心う似たりさあ。あ  
 かいれは情わりの由夫あんど白身それぬ秋の  
 なるんつすもたえんうゆん。それたさあくけつは  
 又の芝居身りの乃情あく。伶人の思わは及ハ神のま  
 におま目も秋は公家氏家とて小の後あく。あ  
 とかりしよもや。秋夜は俄よさあびさる

思われ人のさくらたまひと笑す口や  
 ちとく被さる氣くらとわりやかか  
 醫師

本仏を比てくやがもくくやふまど

佛印

つゝ、秋迦わさく人乃おがまん

いせせし鬼のせごうか多人肉の

業縁

懐くれ筆々色くやいふま

くろのの汗打ましく人の身

針之

今ハののくし金根のま

比ごとげ珠教のまくま

珠教

わくさうまやしくりくうん

石桶のくくく比ごと座いぬけ

桶座

鬼のつゝく傷乃切くま

まめあひまぐる比ごとやま

赤子

とくはうましくく比まの舞衣

目みはんぬ舞のわがまもふの

な久

あくべのななだらうく身とそ

いさくましく人傷と鼻乃比結と

接切

のづきおつるまふれいぬ

比ごとあま地籠と細くまれ竹乃

箒組

うご世煩く人事いすはれかこ

かうるまのりれかいはくま

筆法

まぶさちざくと張がめんすい

くしあつく紙々比ごとくけあの

山伏

ふゆくならくまそ



くまのりきくもあわいふびくぶが  
徳重比呂

掛くぢくぢく捨さくやぶさく

あまきこふ比づくはもたれ海夜乃  
酒作へい

もかりもくく己の鬼かあかん

鬼づくの肩ともかりしるすんがは  
雄也り

あまきらづくやかりハきふい

しらぬ敷二百三十六はあま  
餅屋

比づくやぶさこのいし弁どす

あしうさこやあまぢづくれ登れ靴  
襪を死

鬼ゆりつこもふれあまこころ

くあわくやあまぢづくの圖魔主  
襪

あまきすさこいづらあま様

うけりかしくい事たあてんく捨く礼まきくいあ

まゆりくわに初先のは居ともんはるく

才に十八 連通の東御幸の事

大御軍御集令あまて 侍をいかに度おれい

くまよとんく 伶人は舞まの也の也か

らび三もまともぐりもわ 國白敷下大長公卿

まげくく琴とらこは琵琶とあんく 西登り何

くめらぐく儀くくび某たし何とくお

と懸を後しとわくく向く侍候あまき

くお後くくはさるあまき 幡磨は明石八













於麻心乃鬼とわんげと坂八上

田村之執世とんぞくの徳

うけらるもいはいおのさやう

あうらんごもあかじ徳

唐の徳感陽文うやけはるん

日介大和のあしやうごう

まは日若たまふお事たうまの時が所徳ハ

まといふ夜あふりまうし事とつれいれあう

あひ侍とありまれば徳やまれのあま

修してい小神二ツ三のそふ備くま

とれと徳いそれと徳おる者やま

まんとあれ

ふれいかなるまの由きとれい

あやや非よりりなぬが徳

いばくあう徳いはさあに若のあまり人れ徳

まるといひさう

才四十九 俗回答

いお徳のびくかたれは主祈とまなまのあ

孝賊男女老少ふの勇とやまの年月八苦痛

とつとれおとらへふあま目あなわくやうて

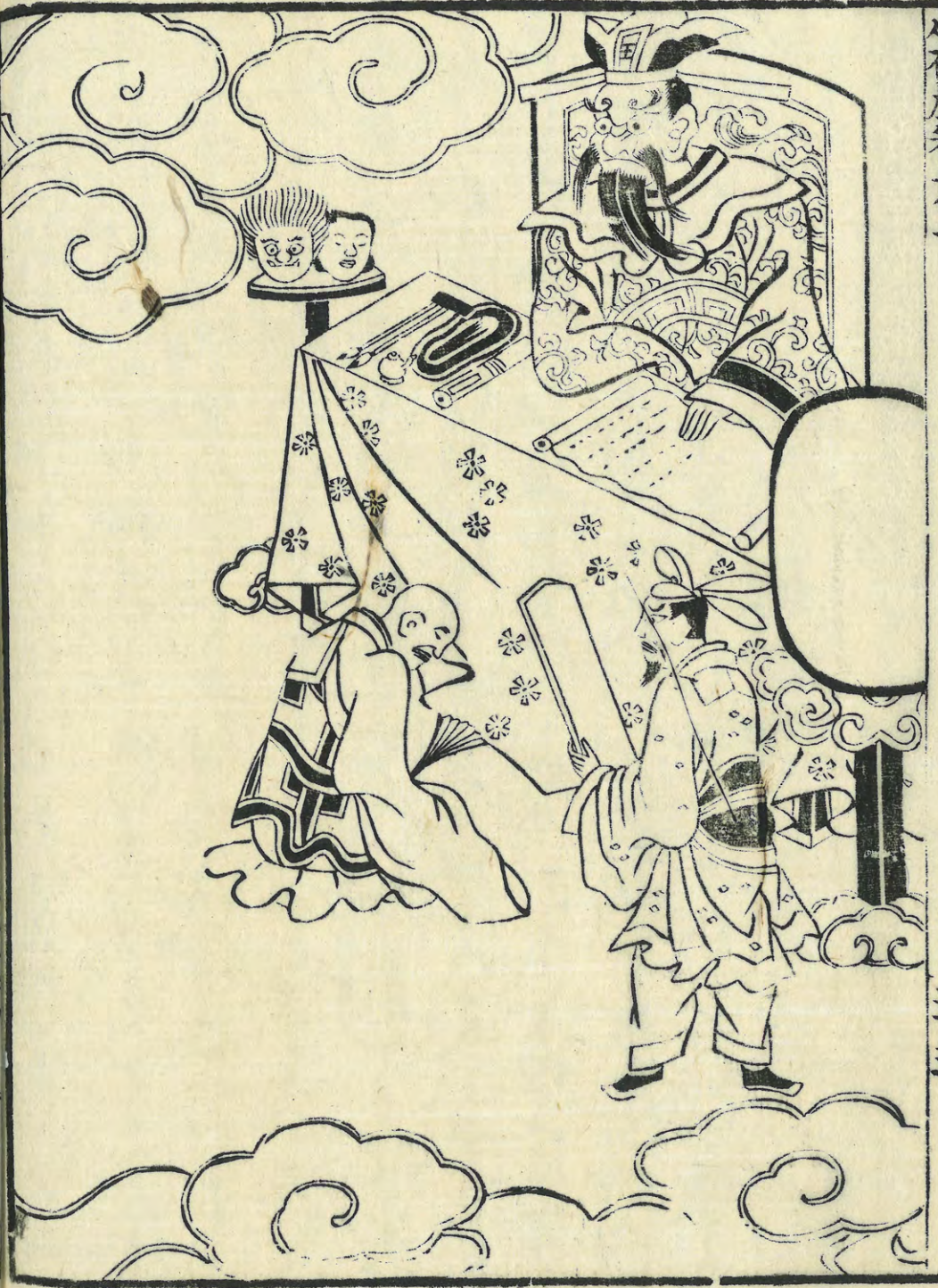
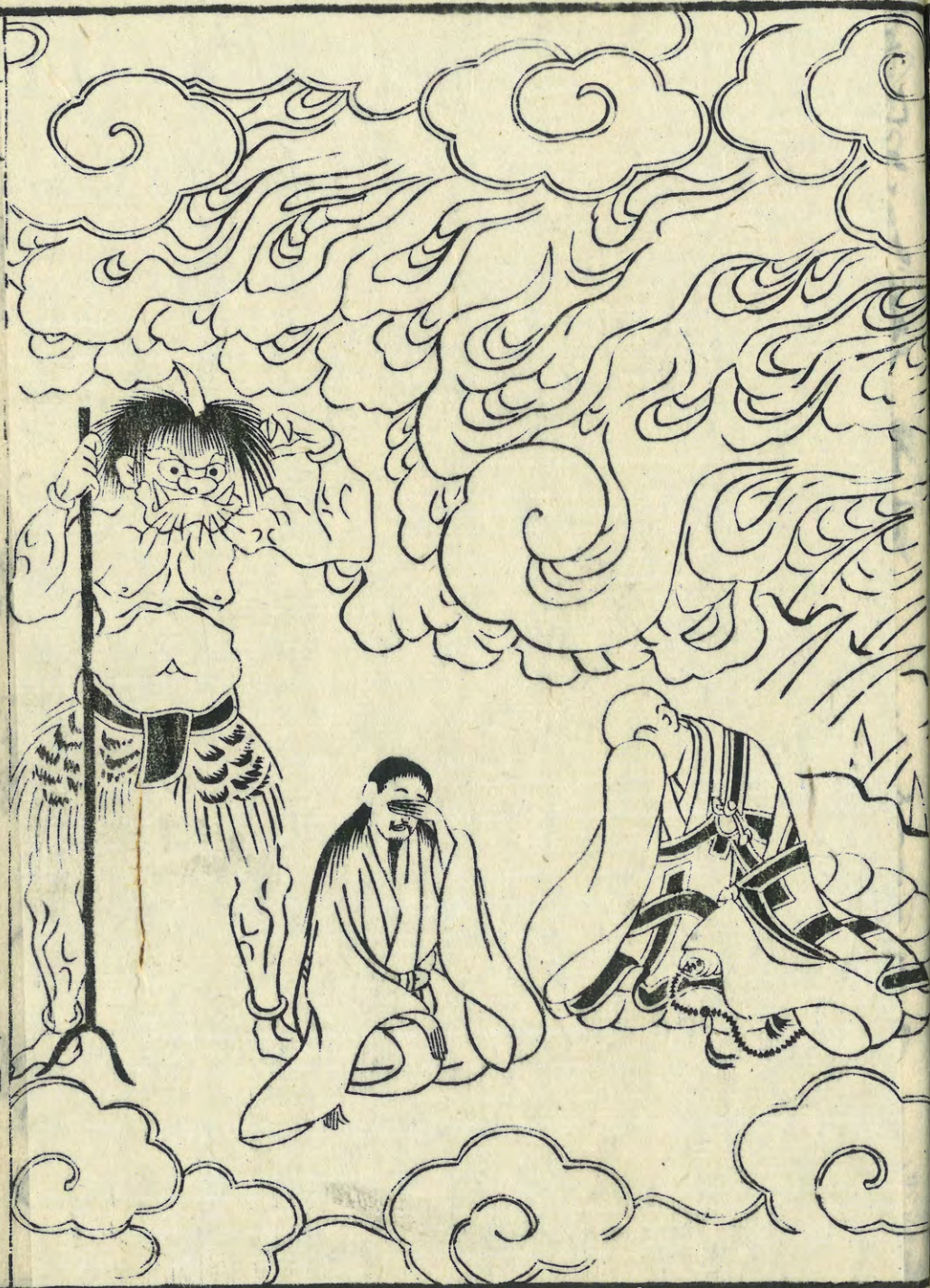
糸を思へすのうこの用さかたけいやく地獄

死か山のわらば常天佛向比しきづけ平坂の  
やしくらうと廣くおははくせきよまよ橋とらえ  
本心るに右の地勢と之を重なるらうと火絶され  
常任の光あつてうま津津の漆とて道まらふ  
ましくあつてん原くくましくまましくとらうらひ  
色花の天文九年辛未の年七月十六日比獄  
被滅の落著の時五つに信く死しり亡人松木  
を界へ真心とておどやかりり信く信く信く人  
て取とてくくくくくくくくくくくくくくくくく  
まはくおしゆふ天比の向は羽毛甲へ裸膝の  
六の生ぬあつて中よ裸とてい人踏とてくくくく

ひの類なり母の胎心よとら比火凡の口許と  
らうとく生何かわらば世の家けここの息新絶し  
两眼一睜まうらうらわきこば肥肉くららて比痛よ  
尿血くらがれて水漏よくり呼吸ハ絶く凡痛よ  
之何是と比水火凡をい入輪くとり生ま心滅し  
まかれば生何らけ死せんにまのあり焼ハくあり  
とまのからとてこくく花くやまらひあ玉とあ  
比花とやうらんとて現三魄のわゆるいこま  
くらう何所の神託は何者又かよわらとらう  
泉よまゆらひ熱卒ハあましくとらまや鬼神ハ  
魂ハ餘あよハ何守まらとて正直ぬく小田也

て人の傳と流しつゝありあふ心八思ふよとく  
ハ被者のいそく一大虎とかゆきハ千大をいふと  
そり一人のいよえんとく百人実候とけしむる  
かゝりよのあつひありされど世毎一遠ま  
定こく人あつて世よきつうう実現を  
尋し因果て自あつてん室かゆと聖人  
西東北と南の四方角天地内かと古里とて  
とまへん心おどく人あつて被筆のゆを在り  
卷上人のあつて地獄よ趣あふ付圖魔王よ  
して延表の御門はあひまひつたうと  
か。ま付圖王のいそく其人のまんまん地獄の別  
す

地獄地獄と云ふありなりと見まふなり  
即被地獄よつゝり獄卒よあつてまんと  
りあふ付焼炭のどくかゆわん録  
揚るま熱鉄の比よまそその人かま  
えんしとるま付上人のあつてハ  
あつてかげれたま獄卒活ハ文と唱  
とよま付別とてハ飛ハあつて  
ま付上人もそれく門と恭敬ハ  
のいそく我とくま  
あつてま今まあハ下賤ハ  
かまらばまハ切てあんとま  
す







こころしき月比のけこわあ先心とまのり  
ていひのく過去未来の事として。善悪同体と  
以て教のたゞの者真寂寺と。善性法師と云ふ人奉  
とくわして同魔王の術よりく同魔王の冠とく  
ぢけ禮していへ。娑婆世界の元生悪業深重に  
して地獄の爲者患とくく心体とんせやふり  
とり。善性凡く凡くやふりく同魔王  
わんれお衆生八官人より分りく千方地獄とく  
このく東よわのくく水二六地とくわりの善性  
このくういひ鉄より馬牛とわのく罪人とわ  
くあんじする罪人とわい。善性官人

是いふおと問は是に形々お家かした心もかよ  
仏法とい終りのせびして牛馬と商賣く。或は責は  
いひる科こととり又の所とくいひて。何んた  
ぬあり是と樹卒とく焼く鉄のくく  
いひこれと傳は。いひく問は。是に不淨か  
法は。か何の法とく。或は。法は。よ  
後とけく。く。若く。善性。く。わ。く。焼  
鉄の。善性。く。わ。く。鉄。く。樹。く。善  
とわく。焼く。善性。く。わ。く。鉄。く。樹。く。善  
愚目く。善性。く。わ。く。鉄。く。樹。く。善  
く。善性。く。わ。く。鉄。く。樹。く。善



かしの佛妙華の母をわくう人

才の平 極楽詣

冥小飛文正真まはたとさげれば比獄極楽ありあま  
こころは謂あ。又教外別傳と云来ありと云  
まの智恵あつこ人のうふもこの心といふ  
あふこれと云来と云の思えんは身人の心と云  
事といふこ思ひ。事といふも心といふと云  
此の力ハそといふれと云ふも此の心と云れば  
此の心といふこ正法の人獲生して細くといふれ  
おれといふ偽きわといふこ心といふも此の心  
高麗獲生といふれをよに泥掬かれば文字小まの法  
小うはく我小何のうと云ひくあ人昔法宗ハ中  
おとく名と云本仏ハ真仏と云法儀あり事小ハ  
あつたといふ天右真云云宗を信法実相と云  
即事向真といふこと心教よあつと本仏而真仏  
か心向成といふこと心生るハ佛ハ生者必滅の理を  
て終小ハ入滅と云多小法像本と云と来代小はま  
く此生と利益と云まの心は利益生るはま  
と盡像本と云釈勝か。善乃丁蘭の本と刻て  
父母と云生る人の極一執事ハ志通感の  
而は小ハ本と云ものところと云善乃玉麻は結が  
まの心君ハ中乃芭蕉乃といふれ見と云のこ

小友嵐巻中







八重遠里東より人はどろくは法像と云  
我より美満くんもろき何くは三三三仏ハ  
心の傍都の四巻くも一情くもろくは  
れわきこいどくは盡工と云いど由うんや  
付れよはれ来ッヤ身傍しかん何そ梵網經  
いしくまめは若きはれ胸中の事なれは  
はねる若あすれは自前乃積なれは  
しり又高真よ同地獄天宮為淨く有性  
無成仏道しわり地獄彼乃陀文ハ毎自作是  
乃二乃ありし文ハ必来加持乃文ハ  
地獄の文ハ之を謂ハ大唐乃貞之華中虞の  
極如しつふ念乃殺心よ依くは経と漢  
せんしふ教とかるは志心なりを思ふ  
きそいとくしつん忽病小なり死り  
途小おとく乃の門はあふく  
の偈と云く自指而曰吾ハ  
あるがゆえにまきと云いけい偈と  
誦せはば偈ハく地獄と要蓮華池  
忌と情くして佛界の事ハ  
まかすれしそり林通彼新  
け二乃乃偈と誦く小音  
げづいともて十八地獄  
蓮華八池と知く





